



mm project

Temporary Art Gallery

Creative Thinking

Art Project

Artists Products

アーティストを思い、ふるさとを思い続けるアート・コーディネーター



水野 美奈子さん

「知らない世界ってワクワクする。まだまだこれから!」と話す言葉はエネルギーに溢れています。時にはアーティストとして、また時にはアーティストと社会をつなぐコーディネーターとしてアート力を発信し続ける水野さん。アートは人とのコミュニケーションのツールであり、社会問題を考えるきっかけになります。そして、何物にも囚われない心の自由が必要なのだ。自由を愛し、変化を楽しむ柔軟な生き方をされる水野さんのアートな人生のこれまでとこれからについて、お話を伺いました。

mm project 6 はいまー
安芸太田町加計の国道186号沿いに空き店舗を自ら改装して作り上げたギャラリーがある。作品が映えるようにと白いドライウォールにむき出しのコンクリートの床。2015年9月に現代アートギャラリーが、アートプロジェクト「mm project」のスペースも兼ね備えてオープンした。広島県の中山間地域において、こうした個人で所有・管理する現代アートギャラリーは大変珍しい。
水野さんは現在、アーティストのご主人と息子さんの家族3人でアメリカに住み、アメリカを拠点に広島を歩き来する生活を送る。ここは小学校卒業まで過ごした町。アメリカでの生活が長くなり、お母さんから日本に帰ってきてほしいと言われ続



けていた。帰国後、なにかふるさとで自分の力を発揮できないかと探る毎日を過ごしていた。
そんな中、ふと以前関わった「信楽まちなか芸術祭」を思い出す。町中がアーティストの制作した個性溢れるたぬぎの焼物で彩られた。自分のふるさとでもアート作品で飾られたら。ご主人のやつてみたらいいよという後押しももらって「mm project」が始まった。「mm」は水野さんとご主人の2人のイニシャルから名付けたものだ。
安芸太田町は確かに人口減少が進み、高齢化が進んでいる。一方で自然豊かなこの町には創作活動に必要な素材にあふれ、ゆつくりと流れる時間はアーティストの創作場所として最適だと水野さんは言う。
「身近にアートが楽しめる、アーティストが作品を発信できる場が必要なんです」と語る。それはアメリカでの経験が大きかった。作品を作り、展示し、買ってもらってこそアーティストは評価され、生業となる。アートのマーケットが成熟しているアメリカで

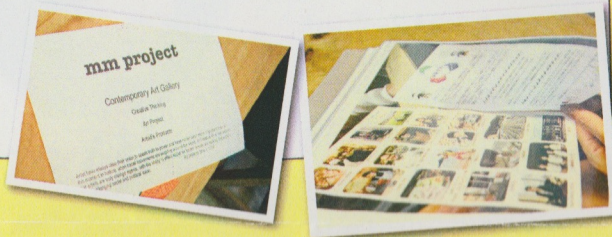
取材者募集中!!
一緒にひろしまをつくりませんか?
090-1715-6461
dan_yasushi@hotmail.com
(ひろしま・へんしゅう部)

「ひろしま」を手にとっていただきありがとうございます。
「ひろしま」は、広島の里山・里海を舞台に
がんばっているステキな人たちが、
広島にくらすわたしたちが取材してつくったフリーペーパーです。
「大きい」よりも「ちいさい」、「強い」より「やさしい」、
そして「自分だけ」よりも「みんなといっしょに」
そんな特別ではないけど、なくてはならないものを大切に
広島の里山・里海のいまをお届けします。

ひろしまソーシャルフリーペーパー「ひろしま」
■発行 広島県
■vol.23 ひろしま・へんしゅう部 (あいうえお順)
岡本 泰志 (ひろしま・へんしゅう部 部長)
大田 真奈 (ひろしまシン大学スタッフ)
久我 遥 (フリーデザイナー)
■事務局 株式会社 FRASCO

「mm project」

「アーティストの力でよりよい社会を」をモットーに、地元や広島に在住、または関係する現代アーティストの紹介やその作品の展示会を企画。またアートがどのように地域と関わることができるか、地域の魅力発信や問題解決ができるか、などといったプロジェクトも行なっている。地域の人々がものづくりで発信する「Me AcT」や地元のお母さんたちが作る「野草茶」のパッケージデザインなどの活動にも関わる。今後は長く在住するアメリカと日本のアーティストの橋渡しをしていきたいと考えている。



志を共にする近くの仲間とつながろう！

広島県が活動をサポートする「ひろしま里山・チーム500」にあなたも参加してみませんか？

活動の様子をチェック！

どんな人が参加しているのか、どんな活動がエントリーされているのか気になる！という方は、一度、チーム500のホームページをのぞいてみてください。

URL:<https://hirosato500.com> ※下記のQRコードからもアクセスできます。

チーム500への登録方法

- ① チーム500のウェブサイト(<https://hirosato500.com>)
- ② メニュー「登録する」をクリック
- ③ 必要事項を記入してご登録ください。
(プロフィール写真1枚、活動写真3枚が必要です。)



お問い合わせ

広島県地域政策局 中山間地域振興課
☎082-513-2632 FAX:082-224-1977
Mail:chichusankan@pref.hiroshima.lg.jp

登録は無料！



こんなにもふるさとにはたくさん
さんのアーティストがいたんだと
驚く。
中でも平野薫さんとの出会
いは節目となった。ドイツでの活
動を終えて帰国したアーティ
ストの平野さんから、作品作り

あつても作品展示を実現するま
ではたくさんさんの苦労と多くの
人からの支援が必要で、自分た
ちも今までに多くの支援をして
もらってきた。今度は自分が日
本で恩返しをしたい！そんな思
いもあって、地元のアーティスト
が発信できる場所をつくった。

簡賀の大イチョウをモチーフ
にした口ウケツ染めの作品展、
地元の方の日常等を撮影した
写真展など、地元出身のアー
ティストの作品展示を行った。
続けていくうちに、周囲の人た
ちがアーティストを紹介してく
れるようになる。

あきらめなければ、 道は開ける

「一度きりの人生、どうせやる
なら好きなことをやっていきたく
いと思っています。とりあえず5
年は主人と一緒にアート作品
を作り続け、アーティストとして
アメリカを開拓していきたいし、
それに主人とあだこうだと
言いながら一緒に制作する時
間がとても幸せで、楽しみなん
です」と心ときめかせながら、こ
れからの展望を教えてください。
アメリカはコレクターや画廊も
多く、厳しい世界でもあるが
チャンスも多い場所。日本のア

鯉のぼりを探しているという相
談を受け、水野さんの実家の蔵
に大事に保管されていた鯉のぼ
りが見つかり、2体を平野さん
に提供した。その鯉のぼりは亡
くなられた弟さんのために生前
購入したものだ。長く実家
を離れ、お母さんと過ごす時間
が短かったことが、ずっとどこか
ひっかかっていたが、この作品が
アートで生きてきた水野さんと
ずっと家を守ってきたお母さん
とを結んでくれた。鯉のぼりが
日の目をみることで、ちよつ
とは親孝行できたかなと話す。

アーティストをもっとアメリカでも
知ってもらえたら…。自身のこ
れまでの経験を活かし、現地
コーディネーターとして、アメリ
カと日本のアーティストの橋渡
しになれたらと考えている。
「絶対にあきらめないでほしい。
とにかくいろんな価値観に触れ
て、自分を磨いてほしい」と水野
さんは広島のアーティストヘー
ルを送る。「でも時には作品から
少し離れて、ぼーっと何もしない
時間も必要ですよ。主人も何
もしないことのほうが多くて心
配になることもありますけど
ね」とお茶目にご主人のことを
語る。

やう「mm project」これ
からにも夢が膨らむ。アーティ
スト・イン・レジデンス(※)として、
この場所が活用できないか。作
品を作り出すプロセスの中で地
域の人との関わりも生まれてい
くかもしれない。そのプロセスも
展示物として発表するのも面
白そう。この町の環境とこの場
所があれば、きっとできるはず。
今度お会いするときにはどん
な活動をされているのか、今か
らお話を聞くのが楽しみだ。
(※)アーティストがある地域で一定期間
滞在して作品をつくり、そこで発表をす
る取組

編集後記

変化することを喜び、ご自身の在りたい姿を追求しつづける、好奇心旺盛な水野さんの姿に自分もそうありたいと感じました。(大田・ライター)
旦那さんの制作活動等について生き生きとお話される水野さんの旦那さんへの想いが溢れ出ていて、思わずほっこりしました。また、年齢を重ねても、腐らず、どんどん新しい事に挑戦されていく姿はとても素敵で、見習いたいと思いました。(久我・撮影)

